

車いすバスケットボール九州大会開催



↑金銭・労力の両面でご協力頂いた、ちくご菜の花L.C

第二十回りんどう杯
車いすバスケットボール
九州大会報告

去る九月六・七日の二日間、久留米総合スポーツセンター体育館で開催した。
今回は二十回記念大会として、台北市華興獅子会との共催とし、名を連ねていただいた。
開会式には、久留米市長をはじめ

↓今年も白熱した試合が繰り広げられました。



多数来賓の方をお迎えしたが、特に田代正久地区ガバナーが、ご多忙な中にご出席をいただいた。
また、久留米市内中学校六校が応援に駆けつけ、熱気のこもった試合に熱心な応援、写真撮影会、車いす体験交流試合をしてくれた。
参加十四チームのファイト溢れる試合は北九州市足立ステイラーズの優勝で、7日(土)閉幕した。

PR委員 筒井博文

「一台四人で百万円だつて」。「いやゴルフコンペ帰りの小型バスが一千万円と聞いた」。酒酔い運転で捕まるといかに高い罰金を払うはめになるか。オレは紛れもない「実話」を知っていると自慢話が始まる。それもジョッキ片手に▼昨年六月に改正された道交法。酒酔い運転が罰金五十万円(改正前十万円)以下と一挙に五倍も厳しくなった。免許を持つ同乗者は共犯者扱いともなり、かくして一網打尽の巨額罰金伝説が生まれた。▼本当かどうか。福岡県警の警視さんに確かめると、むやみに同乗者を捕まえたりはしないという。改正後一年で摘発した約八千件のうちわずかに十件前後。酒を飲んだ上司が自分の車を部下に運転させたような悪質なケースに限られる。立場の弱い相手に押し付けたのなら許せない。そんな上司は実刑だ。

新聞の片隅から...

気流

犬声独語

やつと今期第一号の会報誌を発行することができた。私みたいな「アバウト」なヤツでもやれやれと安堵する。それでも、あと3回も、ゼニも無いのに発行しないといけないのかと思ふと気は重い。それに、「毎月のかわら版」発行。一体諸兄たちは読んでくれているのか、PRとしてはこれが一番気になるところだ。読まれてないとすれば、発行する側の一人「よがり」だ。ライオンズ活動の中でもPRの仕事はかなり高く重要視されている。それに我々PRは応えているのか・・・その一点のみに気を遣う。「かわら版」を発行して、気づいたことだが何と一ヶ月の経つの速いことか。紙面を埋めるのにひと苦労する。これは、やってみただけが知りえるものである。内容はよくなくても今はカラーコピー機がいいから、写真はよければ見ればえがする。写真の方は我がクラブはプロ級揃いだから安心である。それにしてもアンケートの回答が却ってこないのは、一種の怒りをおぼえる。一国一城の主なのだから、自分の意見は持つておくべきだろう。口も達者でいいから、少々の文ぐらいも達者でいてもらいたい。自分の考えを文章でアピールするといふのは小学生の作文よりもやさしいはずである。自分の考えを広く識ってもらう亦といふチャンスだ。PRの引継ぎ会で、いつも出るのは、多くの会員に会報誌に登場してもらおうということである。こんな現実であれば、私には本音と建前論にしか聞こえない。



平成15年
9月号
通巻第15号
PR委員会発行